

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価について

平成16年11月
21世紀COEプログラム委員会

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」(平成13年6月)に基づき、平成14年度から文部科学省に新規事業として措置された「研究拠点形成費補助金」により開始されたものである。

このプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としている。

研究拠点形成費補助金は、専門家や有識者による評価に基づき、主として研究面においてポテンシャルの高い専攻等が世界最高水準の研究教育拠点を形成するために必要とする経費を専攻等の研究者からなる研究グループに対して補助を行うもので、

当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの

学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの

特色ある学問分野の開拓を通じて創造的、画期的な成果が期待できるもの

21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるもの
に対し、重点的な支援を行うものである。

中間評価は、補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分(重点的・効率的配分)に資することを目的とし、審査・評価に基づき選定された採択拠点について、評価要項に基づいて2年経過後の中間評価を行うものである。

平成14年度採択拠点の中間評価は、独立行政法人日本学術振興会において、平成14年度に選定された5分野(生命科学、化学・材料科学、情報・電気・電子、人文科学、学際・複合・新領域)の国公私立大学50大学113件の拠点から、進捗状況報告書、拠点形成計画調査等各種調書の提出を受け、21世紀COEプログラム委員会(独立行政法人日本学術振興会を中心に、独立行政法人大学評価・学位授与機構、私立学校振興・共済事業団、大学基準協会の4機関により運営)において、現時点での進捗状況を確認し、当初目的どおりの達成が可能か否かについて専門的観点から実施したものである。

11月29日の本委員会において、各分野別審査・評価部会における総括評価の結果等、中間評価結果を取りまとめた。

今後、各大学・拠点において、評価記述(総括評価・コメント)を基に計画の推進または見直しを行い、最大限の成果をあげることを期待し、公表するものである。

別紙資料

1. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価実施拠点一覧・・・ 2頁
2. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価における
分野別総括評価一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7頁
3. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価日程・・・・・・・・ 13頁
4. 「21世紀COEプログラム」各種委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・ 15頁
5. 「21世紀COEプログラム」評価要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24頁
6. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価について
(個別具体例)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29頁

別添資料

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価結果表

1. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価実施拠点一覧

【分野名 生命科学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
A 01	バイオとノを融合する新生命科学拠点	北海道大学	理学研究科生物科学専攻	教授	長田 義仁
A 02	動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保 (特に原虫研究を中心として)	帯広畜産大学	原虫病研究センター	教授	五十嵐 郁男
A 03	バイオナノテクノロジー 基盤未来医工学	東北大学	工学研究科バイオロボティクス専攻	教授	佐藤 正明
A 04	細胞の運命決定制御	秋田大学	医学研究科構造機能系専攻	教授	稲垣 暢也
A 05	複合生物系応答機構の解析と農学的高度利用	筑波大学	生命環境科学研究科生物機能科学専攻	教授	深水 昭吉
A 06	生体情報の受容伝達と機能発現	群馬大学	生体調節研究所	教授	岡島 史和
A 07	生体シグナル伝達機構の領域横断的研究	東京大学	医学系研究科機能生物学専攻	教授	高橋 智幸
A 08	「個」を理解するための基盤生命学の推進	東京大学	理学系研究科生物科学専攻	教授	山本 正幸
A 09	戦略的基礎創薬科学	東京大学	薬学系研究科生命薬学専攻	教授	杉山 雄一
A 10	生命工学フロンティアシステム	東京工業大学	生命理工学研究科生命情報専攻	教授	半田 宏
A 11	システム生命科学 :分子シグナル系の統合	名古屋大学	理学研究科生命理学専攻	教授	町田 泰則
A 12	新世紀の食を担う植物バイオサイエンス	名古屋大学	生命農学研究科生物機構・機能科学専攻	教授	水野 猛
A 13	先端生命科学の融合相互作用による拠点形成	京都大学	生命科学研究科統合生命科学専攻	教授	柳田 充弘
A 14	生物多様性研究の統合のための拠点形成	京都大学	理学研究科生物科学専攻	教授	佐藤 矩行
A 15	生体システムのダイナミクス	大阪大学	生命機能研究科生命機能専攻	教授	柳田 敏雄
A 16	細胞超分子装置の作動原理の解明と再構成	大阪大学	理学研究科生物科学専攻	教授	月原 富武
A 17	蛋白質のシグナル伝達機能	神戸大学	バイオシグナル研究センター	教授	吉川 潮
A 18	フロンティアバイオサイエンスへの展開 (細胞機能を支える動的分子ネットワーク)	奈良先端科学技術大学院大学	バイオサイエンス研究科細胞生物学専攻	教授	磯貝 彰
A 19	統合生命科学 (ポストゲノム時代の生命高次機能の探究)	九州大学	理学府生物科学専攻	教授	藤木 幸夫
A 20	細胞系譜制御研究教育ユニットの構築	熊本大学	発生医学研究センター	教授	田賀 哲也
A 21	生理活性ペプチドと生体システムの制御	宮崎大学	医学研究科生体制御系専攻	教授	中山 建男
A 22	構造生物学を軸とした分子生命科学の展開	兵庫県立大学	生命理学研究科生命科学専攻	教授	吉川 信也
A 23	天然素材による抗感染症薬の創製と基盤研究	北里大学	北里生命科学研究所・感染制御科学府	教授	大村 智
A 24	システム生物学による生命機能の理解と制御	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	教授	柳川 弘志
A 25	ヒ複合形質の遺伝要因とその制御分子探索	東海大学	医学研究科機能系専攻	教授	猪子 英俊
A 26	微生物共生系に基づく新しい資源利用開発	日本大学	生物資源科学研究科応用生命科学専攻	教授	別府 輝彦
A 27	放射光生命科学研究	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	教授	山田 廣成
A 28	食資源動物分子工学研究拠点	近畿大学	生物理工学研究科生物工学専攻	教授	入谷 明

【分野名 :化学・材料科学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
B01	大分子複雑系未踏化学	東北大学	理学研究科化学専攻	教授	山本 嘉則
B02	物質創製・材料化国際研究教育拠点	東北大学	金属材料研究所	教授	井上 明久
B03	未来型機能を創出する学際物質科学の推進	筑波大学	数理物質科学研究科物性・分子工学専攻	教授	門脇 和男
B04	動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学	東京大学	理学系研究科化学専攻	教授	岩澤 康裕
B05	化学を基盤とするヒューマンマテリアル創成	東京大学	工学系研究科応用化学専攻	教授	平尾 公彦
B06	ナノ未来材料	東京農工大学	工学研究科応用化学専攻	教授	瀧川 明伯
B07	分子多様性の創出と機能開拓	東京工業大学	総合理工学研究科物質電子化学専攻	教授	山本 隆一
B08	産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成	東京工業大学	総合理工学研究科物質科学創造専攻	教授	細野 秀雄
B09	ハイブリッド超機能材料創成と国際拠点形成	長岡技術科学大学	工学研究科材料工学専攻	教授	西口 郁三
B10	先進ファイバー工学研究教育拠点	信州大学	工学系研究科生物機能工学専攻	教授	白井 汪芳
B11	物質科学の拠点形成・分子機能の解明と創造	名古屋大学	理学研究科物質理学専攻	教授	関 一彦
B12	自然に学ぶ材料プロセスの創成	名古屋大学	工学研究科マテリアル理工学専攻	教授	浅井 滋生
B13	環境調和セラミックス科学の世界拠点	名古屋工業大学	工学研究科物質工学専攻	教授	野上 正行
B14	京都大学化学連携研究教育拠点(新しい物質変換化学の基盤構築と展開)	京都大学	理学研究科化学専攻	教授	齋藤 軍治
B15	学域統合による新材料科学の研究教育拠点	京都大学	工学研究科材料化学専攻	教授	小久見 善八
B16	自然共生化学の創成	大阪大学	理学研究科高分子科学専攻	教授	原田 明
B17	構造・機能先進材料デザイン研究拠点の形成	大阪大学	工学研究科マテリアル科学専攻	教授	馬越 佑吉
B18	分子情報科学の機能イノベーション	九州大学	工学府物質創造工学専攻	教授	新海 征治
B19	エネルギー効率化のための機能性材料の創製	青山学院大学	理工学部附置先端技術研究開発センター	教授	秋光 純
B20	機能創造ライフコンジュゲートケミストリー	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	教授	川口 春馬
B21	実践的ナノ化学教育研究拠点	早稲田大学	理工学研究科応用化学専攻	教授	竜田 邦明

【分野名 :情報・電気・電子】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
C01	知識メディアを基盤とする次世代 ITの研究	北海道大学	情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻	教授	田中 謙
C02	新世代情報エレクトロニクスシステムの構築	東北大学	工学研究科電子工学専攻	教授	内田 龍男
C03	情報科学技術戦略コア	東京大学	情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻	教授	武市 正人
C04	未来社会を担うエレクトロニクスの展開	東京大学	工学系研究科電子工学専攻	教授	保立 和夫
C05	フォトニクスナノデバイス集積工学	東京工業大学	理工学研究科電気電子工学専攻	教授	荒井 滋久
C06	情報通信技術に基づく未来社会基盤創生	横浜国立大学	工学研究院知的構造の創生部門電気電子と数理情報分野	教授	河野 隆二
C07	先端プラズマ科学が拓くナノ情報デバイス	名古屋大学	工学研究科電子情報システム専攻	教授	菅井 秀郎
C08	社会情報基盤のための音声・映像の知的統合	名古屋大学	情報科学研究科メディア科学専攻	教授	末永 康仁
C09	インテリジェントヒューマンセンシング	豊橋技術科学大学	工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻	教授	石田 誠
C10	知識社会基盤構築のための情報学拠点形成	京都大学	情報学研究科社会情報学専攻	教授	田中 克己
C11	電気電子基盤技術の研究教育拠点形成	京都大学	工学研究科電子工学専攻	教授	荒木 光彦
C12	ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出	大阪大学	情報科学研究科マルチメディア工学専攻	教授	西尾 章治郎
C13	ユビキタス統合メディアコンピューティング	奈良先端科学技術大学院大学	情報科学研究科情報処理学専攻	教授	千原 國宏
C14	テラビット情報ナノエレクトロニクス	広島大学	ナノデバイス・システム研究センター	教授	岩田 穆
C15	システム情報科学での社会基盤システム形成	九州大学	システム情報科学府情報工学専攻	教授	前田 三男
C16	アクセス網高度化光・電子デバイス技術	慶應義塾大学	理工学研究科総合デザイン工学専攻	教授	真壁 利明
C17	電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ	中央大学	理工学研究科情報工学専攻	教授	辻井 重男
C18	プロダクティブ ICTアカデミアプログラム	早稲田大学	理工学研究科情報・ネットワーク専攻	教授	村岡 洋一
C19	ナノファクトリー	名城大学	理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻	教授	飯島 澄男
C20	マイクロ・ナノサイエンス集積化システム	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	教授	杉山 進

【分野名 :人文科学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
D 01	心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点	北海道大学	文学研究科人間システム科学専攻	教授	山岸 俊男
D 02	言語・認知総合科学戦略研究教育拠点	東北大学	国際文化研究科国際文化交流論専攻	教授	堀江 薫
D 03	共生のための国際哲学交流センター	東京大学	総合文化研究科超域文化科学専攻	教授	小林 康夫
D 04	生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築	東京大学	人文社会系研究科基礎文化研究専攻	教授	島園 進
D 05	基礎学力育成システムの再構築	東京大学	教育学研究科総合教育科学専攻	教授	金子 元久
D 06	言語運用を基盤とする言語情報学拠点	東京外国語大学	地域文化研究科地域文化専攻	教授	川口 裕司
D 07	誕生から死までの人間発達科学	お茶の水女子大学	人間文化研究科人間発達科学専攻	教授	内田 伸子
D 08	統合テキスト科学の構築	名古屋大学	文学研究科人文学専攻	教授	佐藤 彰一
D 09	グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成	京都大学	文学研究科歴史文化学専攻	教授	紀平 英作
D 10	心の動きの総合的研究教育拠点	京都大学	文学研究科行動文化学専攻	教授	藤田 和生
D 11	インターフェイスの人文学	大阪大学	文学研究科文化表現論専攻	教授	鷺田 清一
D 12	21世紀型高等教育システム構築と質的保証	広島大学	高等教育研究開発センター	教授	有本 章
D 13	東アジアと日本 :交流と変容	九州大学	比較社会文化学府日本社会文化専攻	教授	今西 裕一郎
D 14	都市文化創造のための人文科学的研究	大阪市立大学	文学研究科哲学歴史学専攻	教授	阪口 弘之
D 15	心の解明に向けての統合的方法論構築	慶應義塾大学	文学研究科哲学・倫理学専攻	教授	西村 太良
D 16	神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成	國學院大學	文学研究科神道学専攻	教授	小林 達雄
D 17	日本発信の国際日本学の構築	法政大学	人文科学研究科日本史学専攻	教授	中野 栄夫
D 18	演劇の総合的研究と演劇学の確立	早稲田大学	演劇博物館	館長	竹本 幹夫
D 19	アジア地域文化エンハンシング研究センター	早稲田大学	文学研究科芸術学(美術史)専攻	教授	大橋 一章
D 20	京都アートエンタテインメント創成研究	立命館大学	文学研究科史学専攻	教授	川嶋 将生

【分野名 :学際・複合・新領域】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
E01	生態地球圏システム劇変の予測と回避	北海道大学	地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻	教授	池田 元美
E02	健康・スポーツ科学研究の推進	筑波大学	人間総合科学研究科体育科学専攻	教授	西平 賀昭
E03	融合科学創成ステーション	東京大学	総合文化研究科広域科学専攻	教授	浅島 誠
E04	史資料ハブ地域文化研究拠点	東京外国語大学	地域文化研究科地域文化専攻	教授	藤井 毅
E05	新エネルギー・物質代謝と生存科学の構築(経済性・安全性を主眼とした農工融合型物質エネルギー代謝と生存科学体系の構築)	東京農工大学	生物システム応用科学研究科生物システム応用科学専攻	教授	堀尾 正毅
E06	生物・生態環境リスクマネジメント	横浜国立大学	環境情報研究院自然環境と情報部門	教授	浦野 紘平
E07	環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測(モニタリングネットワークの構築と人為的影響の評価)	金沢大学	自然科学研究科地球環境科学専攻	教授	早川 和一
E08	野生動物の生態と病態からみた環境評価	岐阜大学	連合獣医学研究科獣医学専攻	教授	坪田 敏男
E09	未来社会の生態恒常性工学	豊橋技術科学大学	工学研究科博士後期課程環境・生命工学専攻	教授	藤江 幸一
E10	世界を先導する総合的地域研究拠点の形(フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進)	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻	教授	加藤 剛
E11	環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成	京都大学	エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻	教授	笠原 三紀夫
E12	災害学理の究明と防災学の構築	京都大学	防災研究所	教授	河田 恵昭
E13	新産業創造指向インターナノサイエンス	大阪大学	産業科学研究所高次制御材料科学研究部門	教授	川合 知二
E14	乾燥地科学プログラム	鳥取大学	乾燥地研究センター	教授	稲永 忍
E15	沿岸環境科学研究拠点	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	教授	田辺 信介
E16	海洋エネルギーの先導的利用科学技術の構築	佐賀大学	海洋エネルギー研究センター	教授	門出 政則
E17	放射線医療科学国際コンソーシアム	長崎大学	医歯薬学総合研究科・放射線医療科学専攻	教授	朝長 万左男
E18	先導的健康長寿学術研究推進拠点	静岡県立大学	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻	教授	木苗 直秀
E19	水を反応場に用いる有機資源循環科学・工学	大阪府立大学	工学研究科物質系専攻	教授	吉田 弘之
E20	次世代メディア・知的社会基盤	慶應義塾大学	政策・メディア研究科政策・メディア専攻	教授	徳田 英幸
E21	地域立脚型グローバル・スタディーズの構築	上智大学	外国語学研究科地域研究専攻	教授	石澤 良昭
E22	全人的人間科学プログラム(脳の学習・記憶・推論・思考のメカニズムの究明とその教育技術への応用)	玉川大学	学術研究所	教授	塚田 稔
E23	現代アジア学の創生	早稲田大学	政治学研究科政治学専攻国際関係・比較政治	教授	毛里 和子
E24	国際中国学研究センター	愛知大学	中国研究科中国研究専攻	教授	加々美 光行

2. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)における 分野別総括評価一覧

(各分野別評価結果)

総括評価	生命科学 件	化学・材料 科学 件	情報・電気 ・電子 件	人文科学 件	学際・複合 ・新領域 件	5分野 件
当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。	12	13	6	2	8	41
当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される。	16	8	13	10	13	60
このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される。	0	0	1	6	3	10
現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、下記のコメントに沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される。	0	0	0	2	0	2
現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される。	0	0	0	0	0	0
計	28	21	20	20	24	113

(中間評価における「総括評価」)

[分野名：生命科学]

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される 12件

(A01、A04、A06、A07、A09、A11、A13、A14、A15、A17、A18、A20)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される 16件

(A02、A03、A05、A08、A10、A12、A16、A19、A21、A22、A23、A24、A25、A26、A27、A28)

(中間評価における「総括評価」)

[分野名：化学・材料科学]

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される 13件

(B01、B02、B04、B06、B07、B08、B10、B11、B12、B17、B18、B19、B21)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される 8件

(B03、B05、B09、B13、B14、B15、B16、B20)

(中間評価における「総括評価」)

[分野名：情報・電気・電子]

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される 6件

(C02、C03、C04、C05、C10、C12)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される 13件

(C01、C06、C07、C08、C09、C11、C13、C14、C15、C16、C17、C18、C19)

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される 1件

(C20)

(中間評価における「総括評価」)

[分野名：人文科学]

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される 2件

(D04、D18)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される 10件

(D01、D02、D03、D05、D08、D09、D12、D15、D16、D20)

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される 6件

(D06、D07、D10、D11、D14、D19)

現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、下記のコメントに沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される 2件

(D13、D17)

(中間評価における「総括評価」)

[分野名：学際・複合・新領域]

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される 8件

(E04、E12、E13、E14、E15、E17、E18、E20)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される 13件

(E01、E02、E03、E05、E06、E07、E08、E09、E10、E11、E19、E22、E24)

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される 3件

(E16、E21、E23)

3. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点)中間評価日程

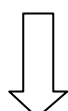
プログラム委員会WG (H15年9月4日) 中間評価全般について



プログラム委員会WG (H15年10月2日) 評価要項の検討



第4回プログラム委員会 (H15年11月21日) 評価要項の決定、部会長の指名等



・中間評価の実施通知 (H15年12月17日) (文部科学省 大学 拠点)

・中間評価用調書提出 (H16年1月26日) (大学 拠点 学振)

第1回評価部会 全体確認・ 書面審査	生命科学 (23大学 28件)	化学・材料科学 (15大学 21件)	情報・電気・電子 (17大学 20件)	人文科学 (16大学 20件)	学際・複合・新領域 (22大学 24件)
	2月12日	2月16日	2月13日	2月17日	2月18日



第2回評価部会 全拠点ヒアリング	生命科学	化学・材料科学	情報・電気・電子	人文科学	学際・複合・新領域
	5月19・20日	5月12・13日	5月10・11日	5月18・19日	5月17・18日



現地調査	化学・材料科学 7件、情報・電気・電子 11件、学際・複合・新領域 5件を実施 7月下旬～8月下旬				
再ヒアリング	(人文科学 5件) 8月31日				



第3回評価部会 拠点毎にとりまとめ	生命科学	化学・材料科学	情報・電気・電子	人文科学	学際・複合・新領域
	9月14日	9月15日	9月10日	9月13日	9月16日



総合評価部会 (全体調整) (10月7日)



プログラム委員会 (評価要項の評価手順再検討) (10月25日)



調整部会 (反論の機会・意見聴取) (11月15日)



総合評価部会 (評価結果の決定) (11月17日)



プログラム委員会 (評価結果の了承・公表) (11月29日)

4 .「 2 1 世紀 C O E プログラム」各種委員会委員名簿

「21世紀COEプログラム委員会」委員名簿

	青木昌彦	スタンフォード大学名誉教授
	安西祐一郎	慶応義塾長
	生駒俊明	一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授
副委員長	石井米雄	人間文化研究機構長
	岩男壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
	ウィリアム・カリー	上智大学長
委員長	江崎玲於奈	芝浦工業大学長
	小野元之	独立行政法人日本学術振興会理事長
	金澤一郎	国立精神・神経センター総長
	金森順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	木村孟	独立行政法人大学評価・学位授与機構長
	清成忠男	大学基準協会会長
	郷通子	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部長
	小林久志	プリンストン大学教授
	佐々木毅	東京大学総長
	白井克彦	早稲田大学総長
	末松安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所長
	鈴木昭憲	秋田県立大学長
	田中成明	京都大学理事・副学長
	丹保憲仁	放送大学長
	外村彰	株式会社日立製作所フェロー
	鳥居泰彦	日本私立学校振興・共済事業団理事長
	中村桂子	JT生命誌研究館長
	西澤潤一	岩手県立大学長
	西塚泰美	神戸大学名誉教授（11月4日御逝去）
	野中ともよ	ジャーナリスト
	増本健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

（計 29名）

「21世紀COEプログラム委員会」WG委員名簿

(役職等は平成15年10月現在)

座長 石井米雄 神田外語大学長

(人文・社会系)

岩男壽美子 武蔵工業大学環境情報学部教授

佐藤幸治 近畿大学法学部教授

(理工系)

生駒俊明 一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授

金森順次郎 財団法人国際高等研究所長

丹保憲仁 放送大学長

増本健 財団法人電気磁気材料研究所長

(生物系)

西塚泰美 神戸大学名誉教授

山田康之 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(学際・複合)

川那部浩哉 滋賀県立琵琶湖博物館長

末松安晴 国立情報学研究所長

中村桂子 JT生命誌研究館長

(計 12名)

「21世紀COEプログラム委員会」総合評価部会委員名簿

	池田克夫	大阪工業大学情報科学部教授
	生駒俊明	一橋大学大学院国際企業戦略科客員教授
<副部会長>	石井米雄	人間文化研究機構長
	岩男壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
	勝木元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
<部会長>	金森順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	木村孟	独立行政法人大学評価・学位授与機構長
	小林久志	プリンストン大学教授
	櫻井英樹	財団法人みやぎ産業振興機構理事長
	末松安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所長
	鳥居泰彦	日本私立学校振興・共済事業団理事長
	中村桂子	JT生命誌研究館長
	永井克孝	三菱化学生命科学研究所名誉所長
	西塚泰美	神戸大学名誉教授(11月4日御逝去)
	増本健	財団法人電気磁気材料研究所長
	松尾尊兌	京都大学名誉教授
	山田康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(計 18名)

「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿 (生命科学)

(分属する委員)

< 部会長 >	西塚 泰美	神戸大学名誉教授 (11月 4日御逝去)
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(専門委員)

	石濱 明	財団法人日本生物科学研究所理事
	市川 厚	武庫川女子大学薬学部教授
	稲上 正	米国バンダビルト大学客員教授
	岩永 貞昭	九州大学名誉教授
	岩渕 雅樹	独立行政法人農業生物資源研究所理事長
	大島 泰郎	東京薬科大学生命科学部教授
< 副部会長 >	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	古賀 憲司	早稲田大学理工学総合研究センター客員教授 (7月 25日御逝去)
	桜井 靖久	東京女子医科大学名誉教授
	佐々木 幸子	株式会社コンボン研究所特別研究員
	杉山 達夫	独立行政法人理化学研究所植物科学研究センター長
	唐木 英明	東京大学名誉教授
	寺田 雅昭	内閣府食品安全委員会委員長
	永井 和夫	中部大学応用生物学部教授
	中澤 晶子	山口大学名誉教授
	藤木 博太	徳島文理大学薬学部教授
	藤澤 仁	滋賀県立成人病センター 研究所長

「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿 (化学・材料科学)

(分属する委員)

< 部会長 > 増本 健 財団法人電気磁気材料研究所長
金森 順次郎 財団法人国際高等研究所長

(専門委員)

浅井 彰二郎 株式会社日立メディコ執行役専務
足立 吟也 日本分析化学専門学校長
岩崎 不二子 電気通信大学名誉教授
岩田 末廣 広島大学大学院理学研究科特任教授
岩村 秀 放送大学教授
遠藤 康夫 東北大学名誉教授
大西 敬三 株式会社日本製鋼所相談役
茅 幸二 独立行政法人理化学研究所中央研究所長
岸 輝雄 独立行政法人物質・材料研究機構理事長
北川 禎三 自然科学研究機構統合バイオサイエンスセンター教授
北澤 宏一 独立行政法人科学技術振興機構理事
木村 茂行 社団法人未踏科学技術協会理事長
佐久間 健人 独立行政法人大学評価・学位授与機構教授
< 副部会長 > 櫻井 英樹 財団法人みやぎ産業振興機構理事長
田中 一宜 独立行政法人産業技術総合研究所理事
中井 武 新潟大学大学院自然科学研究科教授
藤嶋 昭 財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長
増子 昇 千葉工業大学工学部教授
村井 眞二 独立行政法人科学技術振興機構研究成果活用プラザ大阪館長

「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿 (情報・電気・電子)

(分属する委員)

< 部会長 >	生 駒 俊 明	一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授
	末 松 安 晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所長
	小 林 久 志	プリンストン大学教授

(専門委員)

	青 山 友 紀	東京大学大学院情報理工学系研究科教授
	飯 田 尚 志	独立行政法人情報通信研究機構顧問
< 副部会長 >	池 田 克 夫	大阪工業大学情報科学部教授
	稲 垣 康 善	愛知県立大学情報科学部教授
	岩 垂 好 裕	多摩大学大学院経営情報学研究科教授
	笠 見 昭 信	株式会社東芝常任顧問
	川 上 彰二郎	東北大学未来科学技術共同研究センター客員教授
	國 井 秀 子	株式会社リコー執行役員ソフトウェア研究開発本部長
	後 藤 敏	早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授
	小 山 正 樹	奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授
	谷 江 和 雄	独立行政法人産業技術総合研究所評価部首席評価役
	土 井 美和子	株式会社東芝研究開発センター 研究主幹
	東 倉 洋 一	情報・システム研究機構国立情報学研究所教授
	廣 瀬 全 孝	独立行政法人産業技術総合研究所次世代半導体研究センター長
	堀 池 靖 浩	独立行政法人物質・材料研究機構生体材料研究センターフェロー
	正 田 英 介	東京理科大学理工学部教授
	松 波 弘 之	独立行政法人科学技術振興機構研究成果活用プラザ京都館長

「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿(人文科学)

(分属する委員)

< 部会長 > 岩 男 壽美子 武蔵工業大学環境情報学部教授

(専門委員)

秋 道 智 彌 人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授

EADES, Jeremy
Seymour 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授

加 地 伸 行 同志社大学研究開発推進機構専任フェロー

河 村 貞 枝 京都府立大学文学部教授

小 泉 浩一郎 東海大学文学部教授

佐 伯 胖 青山学院大学文学部教授

坂 野 雄 二 北海道医療大学心理科学部教授

坂 部 恵 桜美林大学文学部客員教授

佐 藤 弘 夫 東北大学大学院文学研究科教授

高 山 博 東京大学大学院人文社会系研究科教授

竹 内 洋 京都大学大学院教育学研究科教授

鶴 間 和 幸 学習院大学文学部教授

西 原 鈴 子 東京女子大学現代文化学部教授

増 淵 幸 男 上智大学文学部教授

< 副部会長 > 松 尾 尊 允 京都大学名誉教授

宮 岡 伯 人 大阪学院大学情報学部教授

山 折 哲 雄 人間文化研究機構国際日本文化研究センター所長

「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿 (学際・複合・新領域)

(分属する委員)

< 部会長 > 川那部 浩 哉 滋賀県立琵琶湖博物館長

(専門委員)

青 木 保 政策研究大学院大学大学院政策研究科教授

甘 利 俊 一 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター長

筏 義 人 鈴鹿医療科学大学医用工学部教授

岩 崎 爲 雄 シスメックス株式会社常務取締役

岩 原 弘 育 名古屋大学名誉教授

大 塚 榮 子 北海道大学名誉教授

亀 田 弘 行 京都大学名誉教授

合 志 陽 一 独立行政法人国立環境研究所理事長

澤 田 嗣 郎 東京農工大学工学部教授

清 水 康 敬 独立行政法人メディア教育開発センター理事長

鈴 木 基 之 放送大学教授

田 中 隆 治 サントリー株式会社取締役研究本部副本部長

寺 西 俊 一 一橋大学大学院経済学研究科教授

< 副部会長 > 永 井 克 孝 三菱化学生命科学研究所名誉所長

福 井 勝 義 京都大学大学院人間・環境学研究科教授

松 原 謙 一 株式会社DNAチップ研究所社長

矢 原 一 郎 株式会社医学生物学研究所伊那研究所長

和 田 英太郎 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター
生態系変動予測研究プログラムディレクター

「21世紀COEプログラム」調整部会委員名簿

〔プログラム委員会〕

< 部会長 >	石井 米雄	人間文化研究機構長
	岩男 壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
< 副部会長 >	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長

〔人文科学部会専門委員〕

	秋道 智彌	人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授
	小泉 浩一郎	東海大学文学部教授
	坂野 雄二	北海道医療大学心理科学部教授
	鶴間 和幸	学習院大学文学部教授
	西原 鈴子	東京女子大学現代文化学部教授
	増淵 幸男	上智大学文学部教授
	松尾 尊兌	京都大学名誉教授

5. 「21世紀COEプログラム」評価要項

平成15年11月21日
21世紀COEプログラム委員会
平成16年10月25日一部改正

研究拠点形成費補助金（以下、「補助金」という。）により実施される「21世紀COEプログラム」事業の中間・事後評価は、この評価要項により行うものとする。

1. 評価の目的

補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分（重点的・効率的配分）に資することを目的とする。

21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野毎に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とする。

2. 評価の時期

各研究教育拠点の補助事業について、2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価、必要に応じてフォローアップを実施する。

3. 評価委員の選任

分野別に設置された審査評価部会の委員（専門委員を含む。）を中心に、評価委員を選任する。評価委員の構成は次のとおり。

各審査評価部会における拠点形成プログラム選定に係る審査状況、審査経過等を熟知している者（平成14年度審査員経験者）

これまで関連分野の審査に携わっていない者で、大学院研究科専攻等の研究教育拠点形成に専門的観点から高い知見を有する者

4. 評価の実施

補助事業の進捗状況等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法（評価資料、評価過程・手続等）を次のとおりとする。

（1）評価項目

運営状況

（中間評価）

- ・当初の拠点形成の目的に沿って着実に進展しているか
- ・研究活動において、新たな学術的知見の創出や特記すべきことがあったか
- ・若手研究者が有為な人材として活躍できるような仕組みを措置し、機能しているか
- ・拠点リーダーを中心として事業推進担当者相互の有機的な連携が保たれ、活発な研究活動が展開される組織となっているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資するためどのような取組みを行っているか
- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援がどのように行われているか
- ・研究経費は効率的・効果的に使用されているか
- ・どのような形の情報発信が行われているか（国内・海外に向けて）

(事後評価)

- ・当初の拠点形成の目的は達成できたか
- ・研究活動において、新たな学術的知見等があったか
- ・若手研究者の育成効果があがっているか。また、それは、研究教育拠点形成にどのように寄与しているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資することができたか
- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援がどのように行われたか
- ・プログラム終了後「拠点」はどのように発展していくのか

留意事項への対応

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果により指示を受けた留意事項への対応(学外からの博士課程研究員の受入状況、大学院教育の実施状況などの現況等)

(事後評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果により指示を受けた留意事項への対応(学外からの博士課程研究員の受入状況、研究活動とその成果などの現況等)

今後の展望

(中間評価)

- ・今後、拠点形成を進める上で改善点はないか
- ・我が国のCOEとして、どのような点が期待できるか(例えば、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官連携の視点からの評価、社会貢献等)

(事後評価)

- ・補助事業終了後、大学として、世界的な研究教育拠点の形成に際し、継続的な研究教育活動が実施できるよう、どのような支援をしていくのか

その他

(中間評価)

- ・この拠点は、学内外に対しどのようなインパクト等を与え、大学の個性に何を付加したか

(事後評価)

- ・国際的拠点の特色を示すために、どのような点で効果があったか

(2) 評価方法

21世紀COEプログラムの評価は、分野別審査評価部会の各部会(平成16年度の間
間評価の対象部会は生命科学部会、化学・材料科学部会、情報・電気・電子部会、人文科学部会、学際・複合・新領域部会)において書面評価及びヒアリング・合議評価により実施される。

各審査評価部会は、評価の重複を避けるよう、既に行われた審査・評価結果を活用したり、可能な限り簡潔な評価を実施する等、評価目的や評価対象に応じた適切な方法を採用し、効率的に行う。

書面評価

評価委員は、各拠点形成プログラムについて、次の評価資料により個別評価を行い、ヒアリングに臨む。

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム」中間評価用調書等
 - a) 進捗状況報告書(主な発表論文の抜刷を添付)
 - b) 拠点形成計画調書(中間評価用)
- ・審査結果表
- ・拠点形成計画調書(審査結果表に基づく修正版)

(事後評価)

- ・実績報告書(5年間まとめ)
- ・「21世紀COEプログラム」中間評価用調書
 - a) 進捗状況報告書(主な発表論文の抜刷を添付)
 - b) 拠点形成計画調書(中間評価用)
- ・審査結果表及び中間評価まとめ

ヒアリング・合議評価

各審査評価部会において、評価委員は、上記の評価資料等を基礎にした説明に対し個々の個別評価(書面評価)に基づきヒアリングを行い、その後合議評価をし、拠点形成(補助事業)の今後の進め方(助言等)をまとめる。

- なお、ヒアリングで疑義が生じた場合、必要に応じ、a)学長同行の再ヒアリング、b)現地調査を実施する。

評価の決定・了承

総合評価部会は、各審査評価部会等における合議評価結果について、全体調整を行い、個々の拠点形成プログラムについての評価結果を決定する。

なお、各審査・評価部会において拠点形成を中止することが必要であると判断された拠点については、必要に応じ調整部会を開催し、意見聴取の機会を設ける。

その後、21世紀COEプログラム委員会に報告し、了承を得る。

5. その他

(1) 評価の反映

21世紀COEプログラム委員会は、了承した個々の拠点形成プログラムの評価結果を文部科学省に報告し、文部科学省が行う第4年次以降の補助金の適正配分(増額、減額又は廃止等)に資する。また、拠点形成の推進に向けて適切な助言を行うために、各研究教育拠点に対しこの評価結果を通知(開示)する。

(2) 評価の公開等

評価は、非公開とし、評価の経過は他に漏らさない。

評価終了後、各研究教育拠点の中間・事後評価結果及び進捗状況等をホームページへの掲載等により公開する。

(3) 利害関係者の排除

採択されている研究教育拠点と関わりのある次の者(利害関係者)は、評価を行わない。

研究機関の長等大学院等の運営に関与している者(例:学長、副学長、研究科長(学部長))

採択されている研究教育拠点のリーダー及び当該組織の構成員(事業推進担当者)

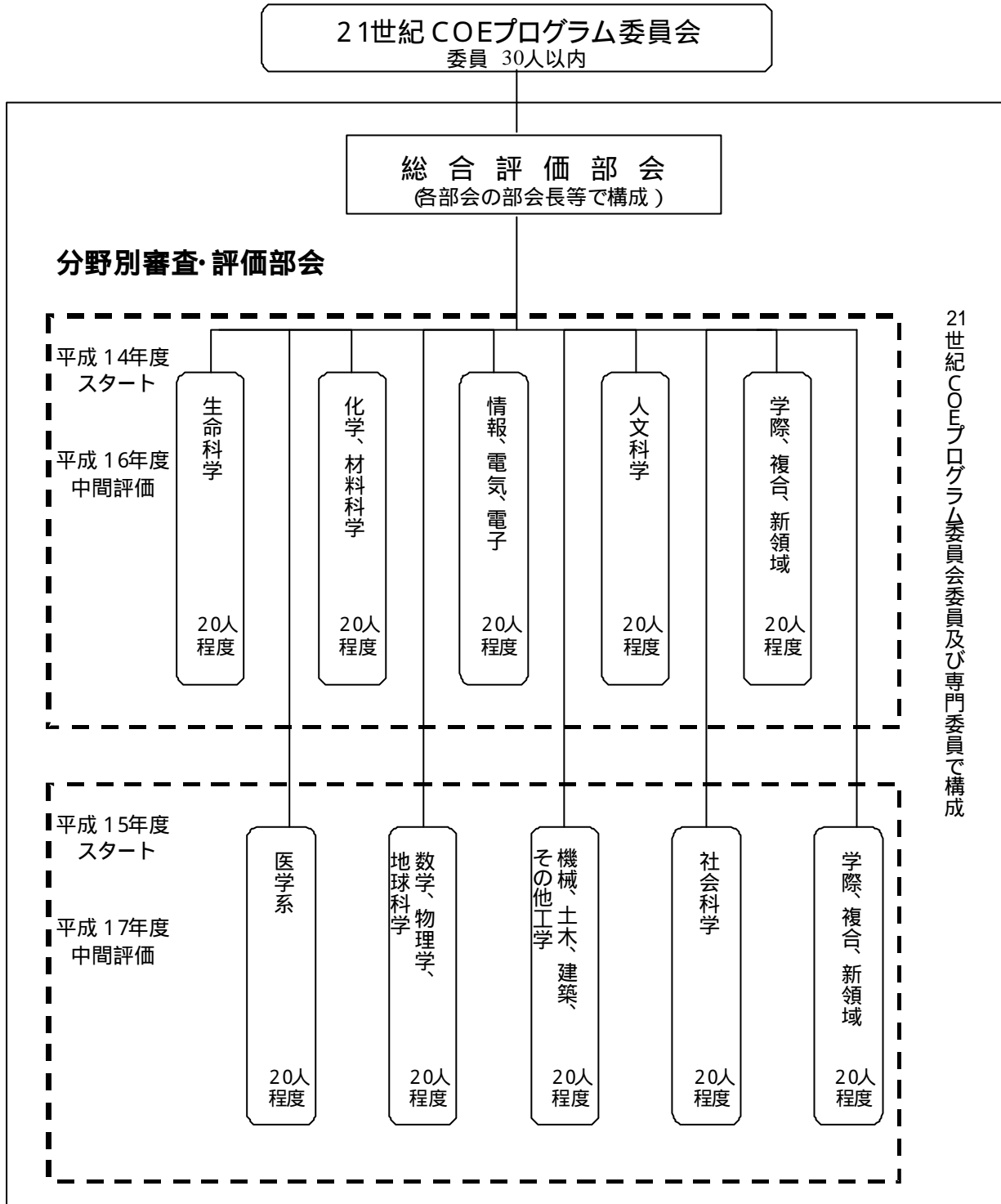
拠点リーダーが所属する組織(例:大学院研究科、研究所等)の構成員

その他中立・公平に評価を行うことが困難と判断する(される)者

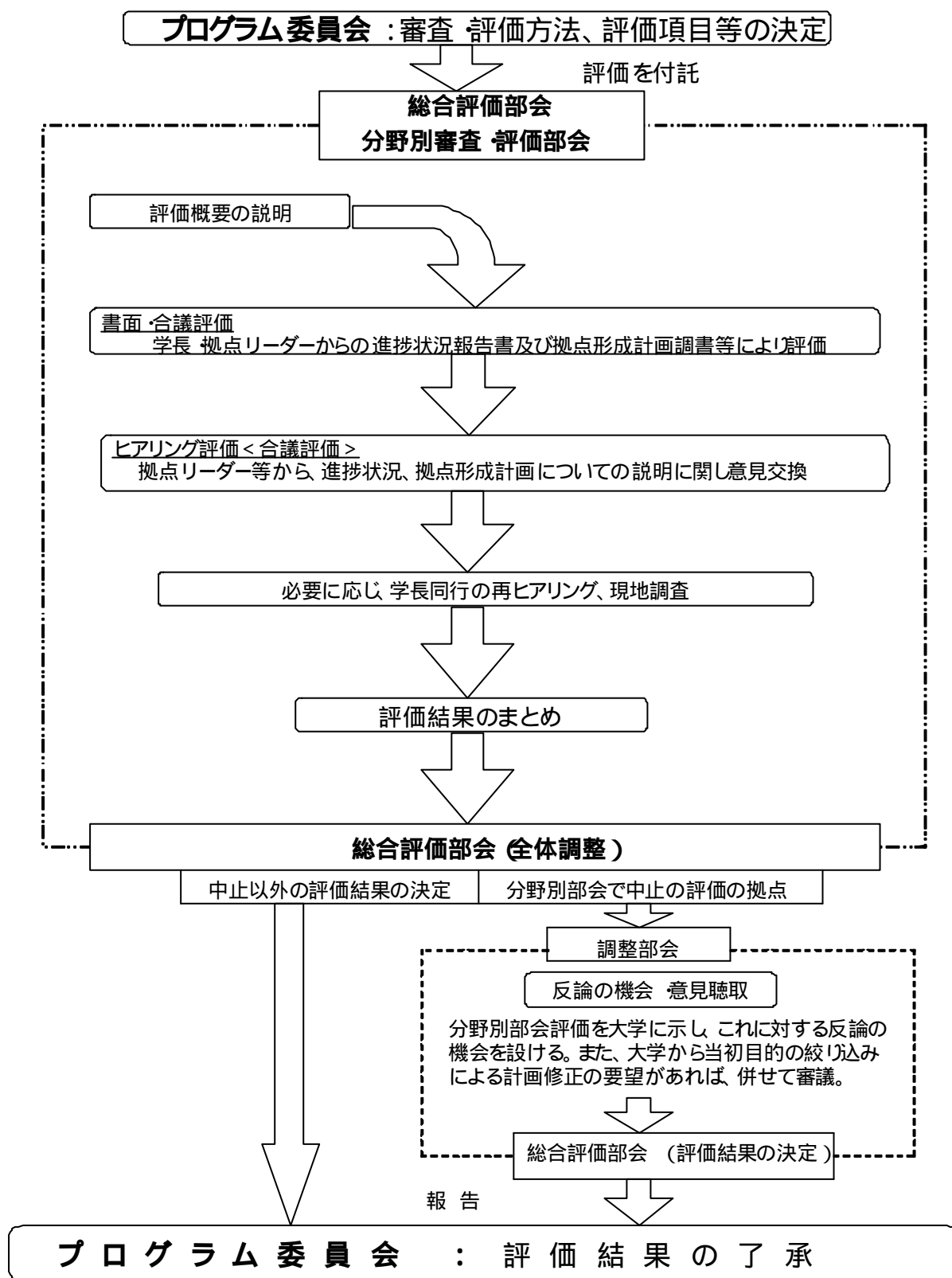
(4) フォローアップ

審査評価部会は、中間評価の結果を受けての対応状況について、必要に応じ、その状況を確認することができる。

【21世紀COEプログラムの評価体制】



【分野別審査・評価部会における評価手順（改正）】



6. 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択拠点) 中間評価について(個別具体例)

生命科学

現段階において、順調に進んでいる拠点

- ・世界最高水準の拠点として、医学、生物科学から理工学にわたる広範囲の研究分野の第一戦の研究者を集結させ、分野横断的な融合研究を行い、生命機能の動態を理解し、また、その利用のための新しい研究分野の創設に関して、研究教育拠点形成の実現へ向けた取り組みが順調に進められている「大阪大学・生体システムのダイナミクス」
- ・異なる研究科等から教員を集め、独創的研究に取り組むことにより、研究・教育の変革・発展を先導する大学院先導機構の先駆的役割を担い、学問領域や職業領域を超えた課題に取り組む研究者や高度専門職業人を養成するプログラムとして、拠点形成にユニークな特徴を有しており、近年、注目を集めている細胞系譜制御研究をキーワードとし、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に計画が進められている「熊本大学・細胞系譜制御研究教育ユニットの構築」
- ・小規模でありながらも、世界をリードする創造的な人材育成策に力を入れており、細胞の運命決定制御機構に関わる研究者や情報を集積することにより研究支援制度を確立させ、新たな研究リーダーとなることが期待される効果的な人材育成が順調に進められている「秋田大学・細胞の運命決定制御」

化学・材料科学

現段階において、順調に進んでいる拠点

- ・世界最高水準の拠点として、研究教育拠点形成の実現へ向けた21世紀の産業を先導する分子材料の基盤技術を確立し、先端教育プログラムに取り組み、世界に開かれた研究教育拠点計画が順調に進められており、期待する「九州大学・分子情報科学の機能イノベーション」
- ・世界をリードしてきた物質・材料に関する潜在的能力を最大限に発揮し、新規物性の発現が期待される特殊構造物質を創製し、高機能・高性能な新材料の実現を目指して努力しており、今後、さらなる国際競争力のある活発な取り組みを期待できる「東北大学・物質創製・材料化国際研究教育拠点」
- ・オリジナリティある研究テーマを取り上げ、産業化につなげることを目指し、また、人材育成において、プロジェクトマネジメント(PM)コースを設置することにより、経営センスを持つ新しい人材育成システムを確立するという新しい試みの計画が進められている「東京工業大学・産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成」
- ・基礎物性から機能開発の幅広い学問について、内外の機関と有機的連携を図り、先進的研究・教育システム構築の先導的役割を担う拠点として、学内外に対するインパクトがあり、独自の教育プログラムにより、競争意識と自立心を具備した国際感覚、独創性に富む若手研究者育成計画が順調に進められている「大阪大学・構造・機能先進材料デザイン研究拠点の形成」

- ・世界をリードする創造的な人材育成策に力を入れており、国際的視野を有する人材を育成するため、部局を超えたCOE講義、実践的科学英語教育、海外派遣の制度化などの人材育成プログラムに関して、効果的な育成が順調に進められている「東京大学・動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学」

情報・電気・電子

現段階において、順調に進んでいる拠点

- ・分野を超えた融合分野で、世界最高水準の研究教育拠点形成の実現へ向けた取り組みが順調に進められており、今後の成果も大いに期待できる拠点として「大阪大学・ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出」(生物系と情報系の融合)、「京都大学・知識社会基盤構築のための情報学拠点形成」(社会と情報学の融合)
- ・世界に通用する研究成果をあげ、それぞれの分野において画期的な成果が期待できる拠点として「東京大学・未来社会を担うエレクトロニクスの展開」(電気電子工学)、「東北大学・新世代情報エレクトロニクスシステムの構築」(電気電子工学)、「東京大学・情報科学技術戦略コア」(情報学)、「東京工業大学・フォトニクスナノデバイス集積工学」(電気電子工学)
- ・世界をリードする創造的な人材育成に力を入れ、大学院学生の入学者数が大きく伸びた拠点として「大阪大学・ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出」、若手研究者の自主的な交流の活性化や厳正な審査のもとでの研究費などの支給により、責任感と自主性をもてる環境づくりを行っている「奈良先端科学技術大学院大学・ユビキタス統合メディアコンピューティング」

人文科学

現段階において、順調に進んでいる拠点

- ・「生と死」に関わる諸問題は、従来、諸科学がそれぞれ個別に検討を行ってきたが、本計画は人文学総体として、臨床分野も含めて「生と死」を研究しようとする意欲的で新しい(独創的な)ものである。若手研究者を育成しつつ、多くの成果を挙げているのみならず、全体として諸研究が死生学の体系化を目指そうとする方向で共通認識にたって進められ、順調に進展している「東京大学・生命の文化・価値をめぐる『死生学』の構築」
- ・アーカイブ構築コース、演劇理論コース、古典演劇研究コースなど、それぞれのコースにおいて具体的な成果があがっており、また国内外の若手研究者を組織的に育成するなど人材育成の面にも力を入れており、世界の演劇研究の拠点としての地位を確立するという計画は順調に進んでいる「早稲田大学・演劇の総合的研究と演劇学の確立」

現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、コメントに沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される拠点

- ・当初の計画遂行は困難な状態にあり、現状では、今後2年間で当初の目的を達成することは難しいと判断せざるを得なかったが、学長の強いリーダーシップのもとで、従来の3つの研究ユニットを1つに絞り比較社会史研究に集中、東アジア諸国家とその形成過程の比較研究、及び東アジアにおける内陸圏と海域圏という2つの位相という視点からの比較社会的研究を行うことを骨子とした修正計画案が、今後2年間で達成することが概ね期待できると認められ、継続にあたっては、研究の焦点を大幅に絞り込んだ修正計画案にふさわしい副題を付していただく「九州大学・東アジアと日本:交流と変容」

- ・本研究における理論、研究組織、研究実践の面で当初の計画遂行は困難な状態にあり、現状では、今後2年間で当初の目的を達成することは難しいと判断せざるを得なかったが、学長の強いリーダーシップのもとで、メタサンエンスの方法による理論構築の促進、8つのタスクフォースを4つに整理・統合することで機動的な研究連携の達成を骨子とする修正計画案が、今後2年間で達成することが概ね期待できると認められ、継続にあたっては、研究の焦点を大幅に絞り込んだ修正計画案にふさわしい副題を付していた。「法政大学・日本発信の国際日本学の構築」

学際・複合・新領域

現段階において、順調に進んでいる拠点

- ・世界最高水準の拠点として、アジア・アフリカ地域研究に関わる豊かな物的・人的資源を有機的に組織し、両地域の近代諸国で書かれた史資料に特化させた資料センターを構築し、現地と協働して史資料収集を行い、海外の所蔵機関や現地との連携のもと、その保存・情報化・共有事業を推進することに関して、研究教育拠点形成の実現へ向けた取り組みが順調に進められている「東京外国語大学・史資料ハブ地域文化研究拠点」
- ・これまでに蓄積した農学分野の知見や技術を基盤とし、乾燥現地に海外研究教育基地を設けて、世界に類を見ない新たな乾燥地科学を構築することに関して、研究教育拠点形成の実現へ向けた取り組みが順調に進められている「鳥取大学・乾燥地科学プログラム」
- ・学内外に対するインパクト（拠点形成にユニークな特徴を有する）があり、拠点の中核機関『沿岸環境科学研究センター』として重要な研究資材を有している。有害化学物質による汚染研究のために約30年間にわたり世界各地から収集した3万検体におよぶ試料を冷凍保存している『生物環境試料バンク』や、四国西端に設置した『栄養塩自動観測システム』があり、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に計画が進められている「愛媛大学・沿岸環境科学研究拠点」
- ・『食』と『薬』のそれぞれ独自に発展してきた学問領域を統合して、『薬食同源』を共通意識として、一大学内で組織的に研究・教育できる体制は本拠点以外には従来存在せず、また新しい学問領域である『健康長寿科学』の創成、医薬品および保健機能食品の正しい利用方法を国民一般に助言できるアドバイザリースタッフおよびその指導者の養成など、他に類を見ない拠点として極めて水準の高い研究と教育を目指している「静岡県立大学・先導的健康長寿学術研究推進拠点」